

公益事業レポート 2017

遠山椿吉記念 第5回 健康予防医療賞 授賞



「すべての人びとのいのちと環境のために」



すべての人びとのいのちと環境のために

当財団は、平成25年4月1日に一般財団法人東京顕微鏡院に移行しました。これまで財団法人東京顕微鏡院（旧財団）が行ってきた諸事業を引き継ぐとともに公益目的支出計画に則って公益事業を実施し、これにより「健康な命」と、それを支える「生活環境衛生」の維持・向上・増進を目指し、もって社会福祉に貢献することを目的としています。

新制度下において、一般財団法人に移行した法人は、これまで法人内部に留保した財産(公益目的財産)を、自ら定めた公益目的支出計画に基づき、本来の目的である公益目的に毎年一定額を使用することが義務付けられています。

一般財団法人移行5年目を迎えて

平成23年の東日本大震災以来、輸入食品等の命令検査解除による受託数の大幅な減少等、財団の事業運営にとって極めて厳しい状況が続いていましたが、総力を挙げた事業の立て直しおよび効率化により、移行後5年目となる平成29年度には、業績の回復が見られました。引き続き、お客様のニーズにマッチした、競争力のあるサービスの提供を目指しています。

平成29年度も前年度同様に法人事業運営とのバランスを図ることとし、核となる公益目的事業を絞り込み、33,683千円を支出する計画でとり進めました。

10年目を迎えた遠山椿吉賞

平成29年度の遠山椿吉賞は、健康予防医療賞としては5回目となります。また、50歳未満の応募者を対象とした「遠山椿吉記念 山田和江賞」は、予防医療分野の第2回を顕彰する運びとなり、多くの若き研究者が応募されました。

本賞は、地域高齢者を対象とするコホート研究により、健康寿命の延伸に関する生活習慣・生活行動などの解明のほか、各種生活習慣や健康増進・疾病予防策が医療費・介護費用に及ぼす効果を分析し、健康づくりの投資効果を明らかにするなど、社会保障体制の持続可能性への貢献に対して顕彰を行いました。

また、山田和江賞は、大規模コホート研究のエビデンスに基づいて、早期の聴覚リハビリテーション導入による自覚的難聴の改善、趣味活動や生きがい作りの推進、性・年齢・自主性に配慮した社会活動の推奨、主観的健康感の維持・向上などの健康長寿対策の提案のご功績と、今後の研究の発展に期待し、顕彰させていただきました。

遠山椿吉賞は、選考委員の先生方の本賞の主旨に対する真摯な思いと厳正なる審査により、公衆衛生と予防医療にまい進する研究者に光をあてる顕彰制度として、わが国に根付きつつあることを感じております。改めて当財団の創業者、遠山椿吉博士に心からの感謝を捧げたいと思います。

健やかなところとからだのために

少子高齢化の一途をたどるわが国で、高齢者が安心して生きていける社会にするためには、という視点からのセミナーシリーズも3年目を迎えました。

時代の要請を捉え、多くの方々の知恵を集めると共に、先駆的視点から、セミナーの企画開催に努めております。

次世代の育成としては、当財団豊海研究所にて、職員の指導による「夏休みこども研究者体験セミナー」を継続しております。

衛生指導を復興支援に

また、未曾有の被害を及ぼした東日本大震災から7年が経ち、被災3県の生産の水準はほぼ回復したものの、売り上げの回復に課題が残されているといわれています。当財団は復興庁が主催する地域復興マッチング「結の場」に参加し、被災地企業のニーズに応じて衛生管理講習会等の開催を継続しました。

いのちと環境のために

2020年の東京オリンピックへ向けて、事業環境は大きく変化しつつあり、2021年4月1日には130周年の節目を迎えます。今日に至る両法人の活動の根底には、遠山博士の「健やかないのちへの思い」があ

ることは論をまちません。「健全な生活環境」を追求する東京顕微鏡院と、「健康なところ」と「健康なからだ」を追求するところとからだの元氣プラザ両法人の一体経営により、将来にわたり、“健やかないのち”の維持、向上、増進を追求し続けたいと思います。

2018（平成30）年5月

一般財団法人東京顕微鏡院
医療法人社団ところとからだの元氣プラザ



理事長

山 田 匡 通

学術振興 (遠山椿吉賞)

すべての人びとのいのちと環境のために

2008 (平成20) 年度、当財団創業者、医学博士遠山椿吉の生誕150年、没後80年を記念して創設した、公衆衛生と予防医療の分野における研究者を対象とした顕彰制度です。「遠山椿吉記念 食と環境の科学賞」と「遠山椿吉記念 健康予防医療賞」を設け、隔年で選考顕彰します。授賞式では、賞状、記念品、副賞100万円を授与し、記念講演およびレセプションを開催しています。平成27年度から、若い研究者を支援する「山田和江賞」も、新たに加わりました。



遠山椿吉記念

第5回

健康予防医療賞

平成29年度は、将来の予防医療のテーマに先見的に着手したものを重点課題としました。平成27年度から設けられた「山田和江賞」は、50歳未満の応募者に対し、その優秀な研究成果を顕彰するとともに、研究のさらなる発展を奨励する目的で、毎年1名に賞状および賞金50万円を贈呈し、顕彰するものです。故山田和江名誉理事長・医師の、50余年にわたるご貢献を記念して創設されました。

本賞は、地道に社会への貢献を追求する研究者を顕彰する賞と位置づけています。

遠山椿吉記念 第5回 健康予防医療賞



辻 一郎 (つじ いちろう) 氏

東北大学大学院 医学系研究科
公衆衛生学分野 教授

「健康寿命の延伸に向けた 疫学研究と政策提言」

副賞 100万円

遠山椿吉記念 第5回 健康予防医療賞 山田和江賞



富岡 公子 (とみおか きみこ) 氏

奈良県立医科大学
県民健康増進支援センター 特任准教授

「地域在住高齢者の健康長寿を規定する要因を 疫学研究によって明らかにする」

副賞 50万円

応募の推進策

10回目を迎える本賞の応募を積極的に呼び掛けました。

- ・全国の大学関連学科へ応募書類の発送
- ・募集時に「50歳未満の応募者に山田和江賞を設け顕彰する」旨を告知

選考の過程

2017 (平成28) 年3月から学会等288媒体に資料を送付し、日本全国の大学関連学部学科200ヶ所に応募案内を送り、6月末日には20件のご応募をいただきました。



選考プロセスは、一次審査・選考委員会という二つのステップで進めました。一次審査では、20件すべての応募論文を、各選考委員に個別に目を通していただくこととし、五つの評価軸（①公衆衛生への貢献度、②公衆衛生向上をはかる創造性、③予防医療の実践、④これからの人の育成、⑤推薦したいテーマと思うか）で五段階評価を付けていただきました。評価票の集計資料は各委員に事前に読んでいただき、選考委員会では本賞の趣旨と今年度の重点課題を確認し、十分に討議を重ねて受賞候補者の選出に至りました。

この選考委員会の結論は、当財団・医療法人合同の経営会議に選考委員長よりご報告いただき、お二方の授賞が決定しました。

- 2月 遠山椿吉記念 第5回 健康予防医療賞」広報 ホームページ掲載
- 4月 公募開始
- 6月末日 締め切り (7月～9月 選考プロセス)
- 9月 選考委員会
- 10月 経営会議で決定
- 2月 授賞式・記念講演会 レセプション

20件 応募

遠山椿吉賞 選考
本賞・山田和江賞
推薦



創業者 遠山 椿吉 (とおやま ちんきち)

1857(安政4)年、山形県生まれ。東京大学医学部において別課医学を修めた後、山形県医学校長心得などを歴任。1888(明治21)年、東京医科大学撰科に入学し、衛生学および細菌学を研究。1890(明治23)年1月、帝国医科大学国家医学科に入学、同年4月卒業証書を授与される。1891(明治24)年、東京顕微鏡院の前身である東京顕微鏡検査所を創立。かたわら東京慈恵医院医学校(東京慈恵会医科大学の前身)講師、東京市衛生試験所長などの職を兼ねる。特筆すべき業績は、東京顕微鏡学会の創立、ペスト菌の研究、脚気の治療方法の研究、東京の水質管理を担い、水道の衛生管理に尽力、また保健部を新設し、予防医療を展開するなど多岐にわたる。機関紙『顕微鏡』『東京顕微鏡学会雑誌』を主宰し、医事衛生に関する数多くの著書や短歌を残し、華道、庭園学などについても著述している。亡くなる1年前にそれまでの人生を振り返り、思想哲学をまとめ「人生の意義と道徳の淵源」を上梓した。1927(昭和2)年、東京顕微鏡院を財団法人とし、初代院長に就任。1928(昭和3)年10月1日遠逝。享年71。

2月15日 遠山椿吉賞授賞式

「遠山椿吉記念 第5回 健康予防医療賞」の授賞式・記念講演会・レセプションは、2018(平成30)年2月15日(木)にホテルメトロポリタンエドモント(東京・飯田橋)にて開催されました。授賞式には、選考委員の先生方を始め、研究者、



祝辞を述べる山田匡通理事長

報道関係者ほか当法人関係者など、100名近い参列者が祝福に集まりました。

山田理事長は、まず、受賞者のお二人を祝福し、遠山椿吉博士の先見性に触れ、本賞の重要性が高まっていくことへの期待を寄せました。

続いて辻氏のご研究について、地域高齢者を対象とするコホート研究により、健康寿命の延伸に関連する生活習慣・生活行動などを解明し、健康づくりの投資効果を明らかにするなど、社会保障体制の持続可能性への貢献が高く評価されたものと、深い敬意と祝辞を述べました。

富岡氏のご研究については、大規模コホート研究に基づき、早期の聴覚リハビリテーション導入による自覚的難聴の改善や、趣味活動や生きがい作りの推進などの健康長寿対策の提案という極めて有意義な研究に対し、今後のさらなる成果への期待を述べました。

最後に、宮坂信之選考委員長を始めとする選考委員の厳正な審査についても、深い敬意を表しました。

●撮影協力：今澤 剛



山田匡通理事長より辻一郎氏に遠山椿吉賞を授与



富岡公子氏に遠山椿吉記念 山田和江賞を授与



受賞記念講演：辻 一郎氏



受賞記念講演：富岡公子氏

■受賞者あいさつ

遠山椿吉賞 辻 一郎氏

(前略) 私が健康寿命の研究というものをはじめたのは、今から25年ほど前のことでございます。アメリカ留学中、初めて「健康寿命」という考えを知ったときの衝撃は、今でも忘れることはできません。

現在、健康寿命という言葉が多くの人の知るところとなり、また、健康寿命の延伸ということが国としての最重要事項の一つに位置付けられるようになりました。それはできるだけ健康で長生きしたい、できるだけ長く生きがいのある生活、人生を送りたいという人々の願いが、私どもの研究を後押ししてくれたのではと思っています。(中略) 健康寿命という研究テーマについて、立ち上げから政策化に至る一連のプロセスに常に立ち会えたことが、私にとってかけがえのない体験であり、また、研究者冥利に尽きるものと思っています。

本日、選考委員長の宮坂先生から、私の研究が遠山椿吉賞の理念にふさわしいものであるとおっしゃっていただき、非常に嬉しく思いました。この賞の理念とは何かと私なりに考えてみますと、公衆衛生学の研究者にとり最も重要なことは、単にエビデンスをつくるということではなく、そのエビデンスからポリシーをつくり、社会を変えることではないかと思えます。

それは感染症が最も重要な健康課題であった時代において、遠山椿吉先生は顕微鏡部隊として戦われ、安全かつ衛生的な水道水の供給をこの東京で実現されました。まさに遠山先生は細菌学、衛生学のエビデンスに基づいて社会を変え、多くの人々を健康、かつ幸福にされたのだと思っています。

私も微力ながら少子高齢化の進む日本社会をできるだけよい方向に変えていけるよう精進していく所存ですので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

遠山椿吉記念 山田和江賞 富岡 公子氏

私にこのような名誉ある山田和江賞を授けてくださいました財団の皆さま、選考委員の先生方、そしてご指導いただいた細井裕司先生、車谷先生、また、私に疫学を学び、習得する機会を与えてくださった、日本疫学会の久道先生、辻先生、磯先生、そして研究にご協力くださった皆さまに心より感謝申し上げます。

今後、健康長寿の実現に貢献できるような研究を、これまで以上に精進し、辻先生のような本賞をいただけるように今後も頑張ってまいりたいと思っておりますので、どうか今後ともよろしくお願いいたします。本日は本当にどうもありがとうございました。

◆選考委員長講評 (抜粋)



宮坂 信之 氏

東京医科歯科大学 名誉教授

(前略) 前回に劣らず非常に優れた研究課題の応募が多かったのが特色でした。評価方法としては①公衆衛生への貢献度②公衆衛生向上を図る創造性③予防医療の実践④これからの人材育成⑤論文数とインパクトファクター、この五つの視点から多角的に評価を行い、選考を進めました。

遠山椿吉賞は、選考委員一同、慎重に審議をした結果、満場一致で辻一郎先生が選出されました。辻先生は健康寿命の延伸のために、健康日本21の策定に非常に貢献をしておられ、自らの研究成果を政策提言にまでつなげている点が、非常に高く評価されました。さらに、さまざまな大規模コホート研究および新たなゲノムコホート研究を融合した疫学研究を立ち上げ、健康寿命延伸のためのエビデンス創出を行い、その成果を政策提言を通じて疫学研究成果の実践を目指している点も注目されました。その成果はインパクトファクターの高い英文学術誌に多数発表されていま

す。同時に辻先生は、東北メディカル・メガバンク機構の予防医学・疫学部門長としても活躍されています。

若手の研究者を奨励する山田和江賞は、満場一致で富岡公子先生が選出されました。高齢者の健康長寿を規定する健康因子を明らかにし、そのエビデンスに基づく対策の提案をされています。それは、まず第一に早期からの難聴対策を進めること、二番目は健康活動や生きがいづくりの推進をすること、三番目は社会活動の奨励をすること、そして四番目は主観的健康観の維持向上を図ることです。学術論文も質量ともに優れており、このため、山田和江賞にふさわしい研究者として選出をいたしました。

今回も素晴らしい研究者を選ぶことができ、選考委員にとっても大きな喜びでした。あらためてお2人の先生にお祝いを申し上げ、選考委員長の経過説明といたします。



高橋利之副理事長による開会の挨拶



選考委員長の宮坂信之先生による講評

◆来賓祝辞 (抜粋)



久道 茂 氏

宮城県対がん協会 会長

今回の授賞式にお招きいただき、挨拶の機会をいただきまして、誠にありがとうございます。

辻教授は平成元年に、私が主宰の東北大学医学部公衆衛生学教室の助手に就任しました。当時、Active Life Expectancy (活動的平均余命) という言葉があり、彼はこれを「健康寿命」という表現で紹介し、平成10年に単行本『健康寿命』、平成16年に『のぼそう健康寿命』を世に出し、この分野の研究をリードしてきました。

特に宮城県大崎保健所管内のコホート研究は、食事、喫煙、

運動などの生活習慣のほか、医療費が及ぼす影響をも調査する、大変ユニークなものでした。

さらに、東日本大震災復興事業である東北メディカル・メガバンク機構の15万人規模のゲノムコホート立ち上げにも貢献し、次世代型の「個別化予防」、「個別化医療」の基礎をつくりました。

富岡公子先生は医学博士を授与された後も、公衆衛生関連の研究を続けられ、特に高齢者の社会参加と健康寿命の関連など、地域住民のコホート研究に取り組んでこられました。その成果は関連学会の高い評価を得て、健康医学研究助成優秀賞や、日本産業衛生学会奨励賞などを受賞されております。

先日、先生の夢をお聞きしたところ、「健康寿命の研究を発展させ、辻先生のような本賞をいただきたい」とのことでした。頑張っていたきたいと思います。本日はお二方とも、本当におめでとうございました。



平田 恭信 氏

東京通信病院 病院長

遠山椿吉賞は由緒がある上に、疫学はとても根気がある学問だと思います。その中で成果を出された辻先生、富岡先生のご研究には非常に感銘を受けております。お二人のご研究がますます発展されていくことを祈念いたしております。(中略)

私は以前から、「東京顕微鏡院」という歴史やロマン、リサーチマインドをかきたてられるような名称に興味を持っておりまして、それが現在も続いていることを非常に嬉しく思っております。遠山椿吉賞ならびに東京顕微鏡院の皆様方がますますご発展されることを祈念し、私の祝辞とさせていただきます。



大島 久二 氏

国立病院機構東京医療センター 病院長

国立病院だった東京医療センターが独立行政法人へ移行する際、病院の理念を新たに決めることになり、「患者の皆様とともに健康を考える医療の実践」という理念を掲げました。この点においてこことからだの元氣プラザと東京医療センターには共通点があるように感じております。(中略)

東京顕微鏡院／こことからだの元氣プラザ、また、ここにご参列の皆様がますますのご健勝とご発展を祈念して、私のごあいさつに代えさせていただきます。本日は辻先生、富岡先生、誠にありがとうございました。

*平成29年度「健康予防医療賞」授賞式についての詳細は、当財団ホームページをご覧ください。

地域貢献 (次世代の育成)

次世代を担うこどもたちへ

平成18年より始めた夏休み「こども研究者体験」セミナーも、12年目を迎えました。創業者遠山椿吉の生誕地、山形県山辺町と120周年を機に交流を始めて5年目となり、意義深い交流が育まれています。サイエンスを学ぶ楽しさ、食品の安全性や健康に関心を持つきっかけとして、次世代を対象とした衛生思想の普及啓発に努めています。

■平成29年度夏休み「こども研究者体験」セミナー 「白衣を着て、手についた菌や食べ物に含まれる色を観察しよう！」

- ◆Aコース：7月27日(木)～7月28日(金)
- ◆Bコース：8月3日(木)～8月4日(金)
- ◆会場：豊海研究所4F会議室・実習室
- ◆参加人数：32名
- ◆講師・協力：調査研究室、食品理化学検査部、微生物検査部

- ◎後援：東京都中央区教育委員会
- ◎協力：山形県山辺町教育委員会
- ◎参加校：中央区立小学校10校、山辺町立山辺小学校



A日程の参加者。山辺小学校の皆さんも参加しました。

本年度は四つの研究を行いました。

■研究1：「手についている菌を見つけてみよう！」

手に付着している菌を調べるために、各自、手を洗う前と洗った後の手を培地につけ、それぞれ孵卵器で24時間培養（35℃）し、菌数の違いを調査しました。

■研究2：「食べ物に含まれる色（着色料）を調べよう！」

着色料をテーマにペーパークロマトグラフィーという分析法で、チョコレートから色素を抽出し、合成着色料について学びました。

■研究3：「食品から取り出した色素で酸性・アルカリ性を調べよう！」

紫キャベツから取り出した天然色素「紫色」と、カレーに使われる香辛料のターメリックから取り出した「黄色」を利用してpH試験紙を作り、身の回りの食品などが酸性かアルカリ性かを調べる実験にも取り組みました。



B日程に参加した皆さん

■研究4：「手の汚れを数値にしてみよう！」

手を洗う前と後では、ATPふき取り検査〔汚染物質（=ATP量）を高感度に測定する検査〕で、数値がどれだけ違うかを自分の手で実験して調べました。



手を培地につけ、菌を付着させます。



培養した菌を顕微鏡で観察します。



着色料を取り出す作業



取り出した着色料を毛细管でスポットします。



食品から色素を取り出し、酸性・アルカリ性を調べる試験紙を作ります。



前日に作った試験紙で、酸性アルカリ性を調べます。



測定器の綿棒で手のひらをふきとります。



測定器に綿棒をセットすると、手の汚れが数値で表示されます。

■「やまのべ教育の日」理科実験出前講座に招聘

日時：平成29年12月16日（土）13:00～15:00

会場：山辺町立山辺中学校 理科室

参加人数：30名

講師他：当財団食と環境の科学センター学術顧問、微生物検査部、理化学検査部、公益事業室

◎参加校：山辺町内の小学校、中学校 ◎主催：山形県山辺町教育委員会

山辺町主催「やまのべ教育の日—東京顕微鏡院 理科実験出前講座」に招聘され、町内中学生をメインに小学生も交え総勢30名で体験学習を行いました。中には夏休み「こども研究者体験」セミナーの受講者も見受けられ、受講を機に理科に興味を持てくださったとのことでした。

平成27年に続き2回目となる今回は、顕微鏡による微生物の観察や自分の手の汚れの数値化、食べ物に含まれる着色料を調べるなど、身近な世界をテーマに実験を行いました。

当日は山形新聞の取材もあり、現地での関心の高さを伺わせました。



『山形新聞』2017年12月22日 15面



スライドを使い、着色料の取り出し方についてわかりやすく説明。



真剣な表情で説明に聴き入る皆さん。



着色料を検査する方法について学びます。



顕微鏡で微生物を観察する皆さん。



最後に全員で記念撮影。

■地元中学生の校外学習に協力

平成29年10月27日(金)、九段中等教育学校1年生5名が、飯田橋施設を訪問しました。今年で11年目となる総合学習「都市と環境」の一環です。課題は、1.「自然放射線にはどのようなものがあるか調べる」2.「一般の人がどのくらい『被ばく』について知っているか調べる」3.「放射線を使った検査や、被ばくについての意見をまとめる」です。放射線の基礎知識を学んだ後、放射線を使用した医療機器を見学しました。

帰校後は「被ばく」について1年生にアンケートを実施するなどして、課題に取り組みました。平成30年1月26日（金）、生徒の皆さんが再訪問し、成果を発表しました。放射線や被ばくについての専門用語も調べ、自分達なりの意見もしっかりと述べるなど、充実した学習となりました。



放射線を使う医療機器について学びます。



検査現場で実際に機器を見学



検査で使うバリウムの重さに驚く皆さん。



同級生へのアンケート調査では、放射線についての関心は極めて低いことが分かりました。

普及啓発 (健康セミナー)

働き盛りからの予防医療の普及啓発

1994 (平成6) 年より「働く人の健康増進セミナー」を7回開催、「働く人の健康教育講座」を15回開催するほかシンポジウムも多数開催してきました。

2008 (平成20) 年から『健康日本21』*に基づく健康セミナーシリーズを展開し、本年度20回目を開催。平成27年度より寺本民生先生を座長としてお招きし、新たな視点から生活習慣病予防を考えるセミナーシリーズを3年計画で開催しました。

*21世紀における国民健康づくり運動

健康に関するセミナー

少子高齢化の一途をたどるわが国で、高齢者が安心して生きていける社会にするためにはどうすべきか、という問題意識に立つ3回シリーズのセミナーです。第1回目の一昨年は、「生活習慣病を縦断的に捉える」と題して小児と高齢者の生活習慣病に焦点をあて、第2回目の昨年は、中高年齢層に焦点をあてて、企画開催しました。

シリーズ最終回となる本年度は、健やかな高齢者社会を目指して、栄養面、生活習慣(病)からの認知症予防、フレイル・ロコモ・サルコペニア予防に至るまで、健康寿命の延伸に向けた対策について考えました。

◆シリーズ「生活習慣病の一次予防を考える～超高齢社会を見据えて～」第3回

健やかな高齢者社会を目指して、今できること

～健康経営の視点から～(参加者数465名)

学校、企業・自治体等の健康管理担当者、管理栄養士等の皆さまに役立つ実践セミナー

*中央労働災害防止協会のTHPLレベルアップ研修会に認定

日時:平成29年10月4日(水)14:00～17:05

会場:有楽町朝日ホール

後援:厚生労働省、東京都、健康日本21推進全国連絡協議会、

日本栄養士会、東京都栄養士会

座長:寺本民生(帝京大学臨床研究センターセンター長)

■主催者挨拶: 及川 孝光((医社)こことからだの
元氣プラザ統括所長)



■ご挨拶: 正林 督章氏(厚生労働省
健康局健康課長)



■終演挨拶: 高築 勝義((医社)こことからだの
元氣プラザ名誉所長)



■座長より:「超高齢社会を迎えたわが国の
生活習慣病を縦断的に捉える」

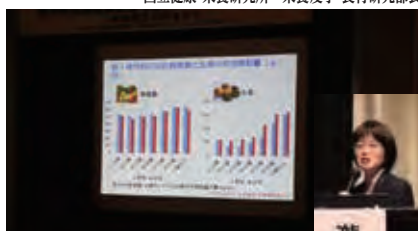
寺本 民生先生(帝京大学臨床研究センターセンター長
(医社)こことからだの元氣プラザ理事)



寺本先生はまず本講演会の意義について触れ、前2回の講演会のテーマを振り返りました。働き盛りの年代が認知症やフレイルについて学び、健康経営から健やかな高齢者社会を目指すために今できることを議論しましょうと語りかけました。

■基調講演:「国民健康・栄養調査からみた
わが国の現状」

瀧本 秀美先生(国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
国立健康・栄養研究所 栄養疫学・食育研究部長)



瀧本先生は、国民健康・栄養調査の結果データに基づき、日本人の栄養摂取状況について年代別、地域別、食塩摂取源など様々な角度から話され、栄養施策への課題を提起されました。

■「認知症予防に、今できること」

秋下 雅弘先生
(東京大学大学院医学系研究科 加齢医学 教授、
東京大学医学部附属病院 副院長 老年病科科長)

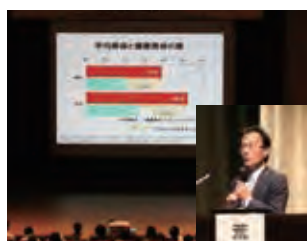


秋下先生からは、まず脳の生理的老化と病的老化、アルツハイマー病の発症機序とその治療についてのお話があり、中年期からの生活習慣病の予防と管理が認知症予防に重要であることや、高齢者の薬との付き合い方について、お話がありました。

■講演「フレイル・ロコモ・サルコペニア予防に、今できること」

荒井秀典先生(国立長寿医療研究センター 病院 副院長)

荒井先生からは、要介護要因としてのフレイル・ロコモ・サルコペニアの相違のお話があり、その予防策として、タンパク質摂取の量やタイミングなどの栄養面、運動面、口腔機能の維持などについてお話がありました。



■パネルディスカッション

座 長: 寺本民生先生

パネリスト: 瀧本秀美先生、秋下雅弘先生、荒井秀典先生(ご登壇順)

パネルディスカッションでは、寺本先生を座長として健やかな高齢社会を目指して今できることについて瀧本先生、秋下先生、新井先生とともに活発な議論を行いました。



普及啓発 (食と環境のセミナー)

身近な食や環境の問題について

当法人では、企業の食品衛生担当者や環境衛生担当者対象のセミナーを、昭和51年より40年以上にわたって開催し、最先端の食や環境の情報提供に努めています。本年度は厚生労働省が推進するHACCPによる衛生管理の制度化をテーマとしました。

■食と環境のセミナー

◆「HACCP (ハサップ) による衛生管理の制度化」に備えて

第91回食と環境のセミナー (参加者数: 191名)

日時: 平成30年3月13日 (火) 13:30~16:10

会場: 中央区立月島社会教育会館 4階ホール

杉浦先生からは、HACCPの効果や考え方、厚生労働省の「食品衛生管理の国際標準化に関する検討会」の内容も含め、HACCP計画作成の具体例を用いてHACCPの制度化に向けての衛生管理についてご講演いただきました。豊福先生には、HACCP運用にあたり妥当性の確認と検証のほか、食品安全コントロールシステムの効果を検証するツールとしての微生物規格と微生物検査についてご講演いただきました。

■講演: 「HACCP 制度化に向けて~食品企業に求められること」

杉浦 嘉彦先生 株式会社鶏卵肉情報センター 代表取締役社長/月刊 HACCP 発行人



杉浦先生の講演



「具体的な事例や運用例が示され、とても分かりやすかった」
(受講者アンケートより)

■講演: 「HACCP システムを効率よく運用するための検査の役割」

豊福 肇先生 山口大学 共同獣医学部 教授



豊福先生の講演



「効率よく検査することの有益性についてよく理解できた」
(受講者アンケートより)

学会等支援

日本食品微生物学会への支援

当法人は、1989 (平成元) 年4月より29年間学会事務局として学会活動を支援しております。同学会は食品の微生物に関する学術研究の推進、並びにその成果の普及を図り、食品の安全および機能の向上に寄与することを目的とした学会です。企業・行政・研究機関のいわゆる産官学で構成されています。



日本カンピロバクター研究会への支援

当法人は、2011 (平成23) 年度から研究会事務局として、細菌性下痢症の最も主要な病原菌であるカンピロバクターの研究者や食中毒・感染症防止に取り組む方々の学際的な研究を支援しています。



NPO法人食の安全を確保するための微生物検査協議会への支援

同協議会は平成15年発足後、平成23年度にNPO法人化し、食品の安全確保の課題に取り組んでいます。当法人伊藤武名誉所長が副理事長、山縣文夫理事が理事、森哲也技術専門係長が監事を務めています。

ATP・迅速検査研究会への支援

同研究会は食品衛生における迅速検査技術向上を目的として平成11年に発足し、19年にわたり活動しています。当法人伊藤武名誉所長が会長を務めています。

復興支援 (復興庁「結の場」)

被災地の産業復興のために

東日本大震災と福島原発事故から平成30年3月11日で7年が経ちました。被災した東北沿岸には水産加工業が多くあり、当法人は、「食品衛生法による厚生労働大臣登録検査機関」としてのノウハウを生かして、地元産業の復興を支援しています。

衛生管理を水産加工業の活力に

当法人は、平成29年2月に始まった復興庁地域復興マッチング「結の場」ワークショップに、本年度も参加し、岩手県の山田町および釜石市で衛生講習会と工場点検を実施しました。

平成29年6月15日 食品衛生講習会 @山田町商工会館 参加：7社
工場点検（水産加工）2社

6月16日 工場点検（和菓子製造）1社

●復興庁では、被災地域の企業が抱える多様な経営課題の解決を図るため、大手企業等が、技術、情報、販路などを幅広く提供する支援事業の形成の場として「地域復興マッチング「結の場」」を実施しています。

講習会開催

水産関係者・経営者等を対象に、岩手県山田町で講習会を開催しました。HACCP義務化の動向やHACCPの概要、具体的な一般衛生管理、水産食品による食中毒について講義を行いました。

工場点検

工場の現場視察では、作業者や現場責任者に対し、手洗いの重要性の意識付けとして手洗い前後でのATP検査数値の比較や、洗浄精度の検証のため、機器類へのATP検査およびふき取り細菌検査を行いました。

また品質管理担当者から、衛生管理の問題点（各種マニュアル等が未作成の状況）および、前日に行った講習会の受講をきっかけに作成した各種記録表フォームについて相談を受け、アドバイスをを行いました。

さらに5S管理の基本的な考え方、現状を踏まえた上での改善方法についてもアドバイスをを行うなど、実践的な衛生知識の啓発に努めました。

●5S：「整理(SEIRI)」「整頓(SEITON)」「清掃(SEISOU)」「清潔(SEIKETU)」「躰(SHITUKE)」の五つ



山田漁港。円形の奥深い入り江で静穏度の高い、天然の良港



養殖魚の良質な餌となるタラの稚魚。養殖も盛んに行われている。



講習会の模様（講師：伊藤武名誉所長）



さんまの燻製オリーブオイル漬の製造工程



鳥などの侵入を防ぐためのシャッターが付いた建屋



建屋内には大型製氷機が導入され、水揚げされた魚の温度管理もしっかりと行われている。



生食用うにの瓶詰め作業工程



酒まんじゅうの蒸し工程

出版関連

健康情報の普及および啓発、活動の情報開示

予防医療の普及啓発のため、講演内容を平成20年度から継続して小冊子で発刊しています。本年度は2015年に発行し好評だった小冊子の改訂版を発行しました。遠山椿吉賞記念講演録、公益事業レポートは、冊子形態のほか、当財団ホームページでもご覧いただけます。

『働き世代から始める、健康長寿に向けた食とからだづくり ～老化予防とメタボ予防の視点から～』

2015年に発行した小冊子、シリーズ「働きざかりから始める、人生80年時代の健康づくり17」が好評をいただいたため、改訂版を発行しました。健康長寿のポイントである「栄養」「体力」「社会」について、中高年期の望ましい生活習慣と共にわかりやすく紹介しています。



新刊 発行日：平成29年7月
サイズ：A5判
ページ：56ページ
発行部数：各1,500部 価額：350円

※当財団ホームページよりご購入いただけます。

■遠山椿吉賞受賞記念講演 講演録

両法人の「事業年報」を発刊し、公益事業として遠山椿吉賞受賞記念講演の講演録を掲載しました。



新刊 発行日：平成29年8月31日
サイズなど：A4判（講演録：26ページ）、CD-ROM付属
発行部数：1,000部
配布先：契約先、関係行政機関、関係研究機関、関係団体など

第5回 食と環境の科学賞

「オーダーメイドで飲用水の安全性を評価できる技術の開発と実践」
◎受賞者 加藤 昌志（名古屋大学大学院医学系研究科 環境労働衛生学 教授）

第5回 食と環境の科学賞 山田和江賞

「福島第一原子力発電所事故による食品・環境からの放射線被ばくリスク評価」
◎受賞者 原田 浩二（京都大学医学研究科 環境衛生学分野 准教授）

※当財団ホームページでも公開しています。

■公益事業レポート 2016

公益事業の年次ディスクロージャー誌として発刊しました。皆様に幅広くお配りし、公益事業の情報開示を行っています。



新刊 発行時期：平成29年5月
サイズなど：A4判、16ページ
発行部数：2,000部

※当財団ホームページでも公開しています。

■eラーニング「はじめての食品表示」

食品製造関連企業における新任の食品表示担当者、新入社員の方々を対象に、eラーニング事業を実施しました。自習教材として活用いただき、食品表示についての理解を深めていただくことが目的です。

教材は加工食品の食品表示について網羅的、包括的なものとなりました。また、スライドには音声ナレーションがついているほか、PCでもスマートフォンでも利用可能にしました。



受講期間：平成30年3月1日～31日

講座内容：

第一章 食品表示の基本

- §1 食品表示の一元化
- §2 食品表示法
- §3 食品表示基準
- §4 食品表示基準施行の経過措置期間
- §5 食品表示の対象
- §6 一般用加工食品
- §7 一般用加工食品の表示



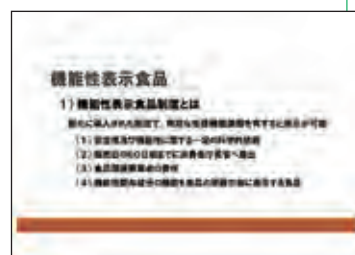
第二章 横断的義務表示事項

- §1 名称
- §2 原材料名
- §3 添加物
- §4 内容量
- §5 消費期限・賞味期限
- §6 保存方法
- §7 栄養成分
- §8 食品関連事業者
- §9 製造所等（固有記号）



第三章 一定の加工食品共通表示事項

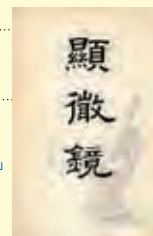
- §1 アレルゲン
- §2 アスパルテームを含む食品
- §3 特定保健用食品
- §4 機能性表示食品
- §5 遺伝子組換え食品
- §6 乳児用規格適用食品
- §7 原料原産地名
- §8 輸入品



東京顕微鏡院、こころとからだの元氣プラザの歴史と公益事業

～三つの世紀にわたる歩み

東京顕微鏡院、こころとからだの元氣プラザの主な動き	【戦前】	普及啓発活動、出版、その他公益活動など
遠山椿吉、佐藤保、川上元治郎が協同して、京橋区にあった成医会の一室を借り、「東京顕微鏡検査所」を創立 検査業務開始	1800年～	『結核微菌簡便検査法』出版
病原的微菌標本の頒布を開始し、本所考案の喀痰沈殿器を製造販売	1891(明治24)年	「顕微鏡」第1号(1894～1944年) ※後に「東京顕微鏡学会雑誌」に改称し、1944(昭和19)年戦時統制令で休刊するまで50年間発行
細菌検査の実務指導を行う講習科を開講 名称を東京顕微鏡院と改称 種痘術講習科を新設。培養基の発売開始	1892(明治25)年	機関誌「顕微鏡」第1号発行 啓蒙用幻灯映画製作 「顕微鏡の祖」マルピギー200年記念式典、本院にて挙行
飲料水の検査を開始	1895(明治28)年	コレラ講習会を開催
母乳検査を開始	1896(明治29)年	回帰熱講習会を開催
事業拡大にともない、神田区小川町に移転	1899(明治32)年	ペスト講習会を開催
遠山椿吉院長、初代東京市衛生試験所長に任ぜられる ペスト試験室を新設	1900年～	第2回日本医学会(1893(明治26)年) 東京顕微鏡院が、東京慈恵医院、海軍軍医学校、伝染病研究所、大日本製薬会社と並び、参観先となる
遠山椿吉院長、医学博士の学位を授与される	1903(明治36)年	来日したコッホ博士を囲む生花の会(於帝国ホテル) 前列左からロベルト・コッホ博士、北里柴三郎博士、後列左から2人目が遠山椿吉
保健部を新設。広く世間の人びとに対し、健康診査(健康診断)と衛生上の協議(衛生相談)を開始	1907(明治40)年	「結核征伐の歌」
遠山椿吉院長、東京市参事会より独ベルリン市開催万国衛生および民勢学会参列、欧州各都市衛生設備実況調査を命ぜられる	1908(明治41)年	遠山椿吉院長、来日したロベルト・コッホ博士、北里柴三郎博士を招待し、生花の会を開催
同時に、内務省より欧米都市における汚物掃除の実況調査を囑託(翌年帰国)	1914(大正3)年	「結核予防善悪鑑」発行、「結核征伐の歌」を発表
遠山椿吉院長、内閣より医術開業試験委員を命ぜられる	1915(大正4)年	
(院長、長年来の研究による)脚気治療薬 うりひんを製品化	1922(大正11)年	「遠山博士脚気病原因之研究」発行
創立30周年記念祝賀会	1923(大正12)年	
9月1日関東大震災により、院舎およびその設備をすべて焼失	1927(昭和2)年	「人生の意義と道德の淵源」出版。天皇に献上
9月6日麻布区富士見町に仮院舎を建設し、10月1日一般業務を再開	1928(昭和3)年	
内務大臣より財団法人の設立許可を受ける	1929(昭和4)年	脚気の無料診療を開始
遠山椿吉、肺がんのため遠逝、享年71	1930(昭和5)年	第1回脚気無料巡回診療実施(財団法人東京顕微鏡院社会部)
レントゲン深部治療開始	1935(昭和10)年	結核予防週間および健康週間に参加し、無料喀痰検査などを実施
創立50周年記念式典(1940年)	1945(昭和20)年	
戦災により、以後10年にわたり事業中断	【戦後】	
遠山正路院長より事業を継承	1954(昭和29)年	
診療所を開設、細菌検査所を再開	1955(昭和30)年	



東京顕微鏡院講習科第1回卒業式(1892年)



「結核征伐の歌」



うりひん広告



震災後に復興した東京顕微鏡院本院(1925年竣工)同年、病理組織検査開始、レントゲン科新設



歴代代表者	(在任期間)	歴代代表者	(在任期間)
創立者(院長) 遠山 椿吉	1891~1928年	第5代(理事長) 山田 匡哉	1967~1989年
第2代(院長) 遠山 正路	1929~1954年	第6代(理事長) 山田 和江	1989~1995年
第3代(院長) 細谷 省吾	1955~1957年	第7代(理事長) 下村 満子	1995~2007年
第4代(院長) 高橋 悌三	1957~1967年	現理事長 山田 匡通	2007年~

東京顕微鏡院、こころとからだの元氣プラザの主な動き		普及啓発活動、出版、その他公益活動など
職域を対象とした健康診断業務を開始。外来診療開始 臨床検査は病院からの受託のほか、学校保健法による 集団検査を拡大 	1967(昭和42)年	
東京都の委託を受け、小中学生の 大気汚染の影響調査を実施(5年継続)	1972(昭和47)年	
建替えによる新院舎完成。 人間ドック事業を開始。付属臨床検査所を登録	1974(昭和49)年	
食品衛生法に基づく厚生大臣指定検査機関の指定を受け、 食品衛生検査所を開設	1975(昭和50)年	
がん検診(胃、子宮、乳房)開始。多摩分室を立川に開設	1976(昭和51)年	「小笠原健康な村づくり事業」(1978年~)
	1978(昭和53)年	離島村民の健康管理を目的とした 「小笠原健康な村づくり事業」を開始 「小児ぜん息母親教室」、食品衛生セミナーなどを開催
水道法に基づく厚生大臣指定検査機関の指定を受ける (簡易専用水道検査)	1979(昭和54)年	
立川衛生検査センターを開設 付属第2臨床検査所を登録 	1986(昭和61)年	再興30周年記念シンポジウム「21世紀のいのちと生活」を開催
	1987(昭和62)年	学術普及誌「健康と環境」創刊(~2000年)
	1991(平成3)年	創立100周年記念シンポジウム「21世紀への生命潮流」を開催
	1992(平成4)年	シンポジウム「ベイブリッジフォーラム '92-21世紀への対がん戦略」を開催 平成4年度より事業年報の発行開始 
食品検査施設を移転し、日本橋研究所を開設 (2001、2002、2005年に順次拡大)	1996(平成8)年	
立川事務所を開設、食品等分析調査研究所を合併 (1998年、食と環境の科学センター検査第3部に改組)	1997(平成9)年	シンポジウム「新時代の高血圧管理」 「職場と住宅環境を考える」などを開催
会員制人間ドックを開始	1998(平成10)年	シンポジウム「新しい時代の糖尿病対策」 「はたらく女性とメンタルヘルス」などを開催
	2000年~	
食と環境の科学センター日本橋研究所に検査第3部を 移転し、拡大 トータルヘルスセンターBe-Well、 女性のための生涯医療センターViViを開設	2001(平成13)年	創立110周年記念日米メディカルシンポジウム 「21世紀の女性と性(ジェンダー)と健康」を開催
	2002(平成14)年	創立110周年記念シンポジウム「食の安全と健康を考える」 を開催
医療部門を統合・拡充し、 医療法人社団こころとからだの元氣プラザを 設立 	2003(平成15)年	女性のための生涯医療センターViVi 開設1周年記念 シンポジウム「アダムとイブの医療革命」を開催
	2005(平成17)年	東京顕微鏡院創立115年、こころとからだの元氣プラザ創立3年 記念シンポジウム「いのちとは何か、生きるとは何か」を開催
	2007(平成19)年	メディカル・シンポジウム「医療の未来、日本の未来 ーなぜ日本では高度先端医療が遅れているのか?」を開催
立川研究所を一ヶ所に統合拡大 こころとからだの元氣プラザ(飯田橋)と 市ヶ谷本院の施設再配置	2008(平成20)年	遠山椿吉生誕150年、没後80年を記念して遠山椿吉賞創設
こころとからだの元氣プラザ(飯田橋) 外来診療と女性のための生涯医療センターViViを統合	2009(平成21)年	「遠山椿吉記念 第1回 食と環境の科学賞」を西尾治氏、 同奨励賞を川崎晋氏に授与 遠山椿吉生誕150年記念シンポジウム 「東京の水の源流を探る ~豊かな東京の水利用を支える 日本の水、世界の水~」を開催

東京顕微鏡院、こころとからだの元氣プラザの主な動き		普及啓発活動、出版、その他公益活動など
こころとからだの元氣プラザ、 アジュール竹芝総合健診センターの運営を受託 臨床検査部がこころとからだの元氣プラザの組織に移行 三菱化学メディエンスと共同運営で 「元氣プラザ臨床検査センター」をスタート	2010(平成22)年	「遠山椿吉記念 第1回 健康予防医療賞」を鈴木隆雄氏、 同特別賞を中村雅一氏に授与
3月11日 東日本大震災により、創立120周年記念式典・ 祝賀会、創立120周年記念顧客イベント中止	2011(平成23)年	「遠山椿吉記念 第2回 食と環境の科学賞」を塩見一雄氏、 同特別賞を小泉昭夫氏に授与 創立120周年記念シンポジウム「アルツハイマー型認知症の 治療・予防戦略—研究・治療・ケアの最前線から—」を開催
4月1日 創立120周年 	2012(平成24)年	「遠山椿吉記念 第2回 健康予防医療賞」を白木正孝氏、 同特別記念賞を久山町研究グループ代表 清原裕氏に授与
創立120周年記念年頭式 豊海センタービル竣工 日本橋研究所が施設拡充に伴い、豊海研究所に移転 4月1日に財団法人東京顕微鏡院は一般財団法人に移行、 「一般財団法人 東京顕微鏡院」と名称変更 [ISO/IEC 17025:2005]を認定取得(放射能試験)	2013(平成25)年	「遠山椿吉記念 第3回 食と環境の科学賞」を小西良子氏、 同功労賞を石川哲氏に授与 「創立120周年記念誌」を刊行
登録衛生検査所「元氣プラザ細胞病理コアテクノロジー」が スタート [ISO/IEC 17025:2005]を認定取得(食品試験：理化学、微生物)	2014(平成26)年	「遠山椿吉記念 第3回 健康予防医療賞」を岡山明氏、 同特別賞を伊藤千賀子氏、同奨励賞を西浦博氏に授与
「元氣プラザ臨床検査センター」機能を元氣プラザビル内に 移設拡充し、院内施設化。これに伴い、衛生検査所登録を抹 消	2015(平成27)年	「遠山椿吉記念 第4回 食と環境の科学賞」を新田裕史氏、 同奨励賞を山口進康氏に授与 故山田和江名誉理事長・医師の50余年の功績を記念して、 遠山椿吉賞50歳未満の応募者を顕彰する「山田和江賞」を創設
	2016(平成28)年	「遠山椿吉記念 第4回 健康予防医療賞」を野田光彦氏、 同「山田和江賞」を石和田稔彦氏に授与
	2017(平成29)年	「遠山椿吉記念 第5回 食と環境の科学賞」を加藤昌志氏、 同「山田和江賞」を原田浩二氏に授与 DVD教材「これで納得! HACCPシステム導入のための7原則」 を刊行
	2018(平成30)年	「遠山椿吉記念 第5回 健康予防医療賞」を 辻一郎氏、同「山田和江賞」を富岡公子氏に 授与 eラーニング「はじめての食品表示」を実施 

「遠山椿吉記念 第5回 健康予防医療賞」(右:辻氏 左:富岡氏)

歴史写真ギャラリー

～東京顕微鏡院 創業時の姿～



明治29(1896)年、神田小川町の院舎



明治29(1896)年、院内実験室



明治29(1896)年、院内講堂



明治44(1911)年、創立20周年記念式典



大正4(1915)年、改築された新院舎



大正4(1915)年、新院舎の診察室



大正4(1915)年、新院舎の実験室



大正4(1915)年、新院舎の談話室

Our Credo 私たちの公益事業

1. 創業精神に則り、人びとの健康と、食品の安全、生活環境衛生向上のため、両法人の事業を基盤に、世の中に貢献します。
2. 時代の先を見つめ、先駆的な視点から発信することに努めます。
3. 職員が参画意識をもてる仕組みを作り、組織の活性化に生かします。

<顕彰制度>

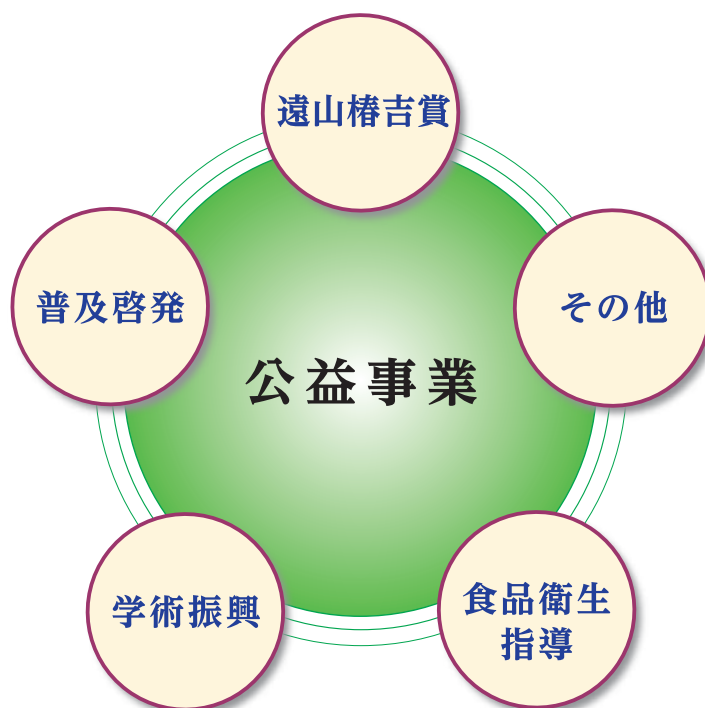
- *遠山椿吉記念 第6回 食と環境の科学賞 顕彰
(告知、応募論文募集、選考委員会開催、授賞式・記念講演・レセプション開催、講演録作成)
- *遠山椿吉記念 第6回 健康予防医療賞(平成31年度)準備

<セミナー・シンポジウム>

- *健康セミナー
- *食と環境セミナー

<出版等>

- *企画制作



<次世代育成>

- *夏休み「こども研究者体験」セミナー

<その他>

- *公益事業レポート

2018(平成30)年度 公益事業計画

発行:

一般財団法人 東京顕微鏡院 公益事業室

〒102-8288 東京都千代田区九段南4-8-32 TEL.03-5210-6651 <http://www.kenko-kenbi.or.jp/>

医療法人社団 ころとからだの元氣プラザ 広報室

〒102-8508 東京都千代田区飯田橋3-6-5 TEL.03-5210-6897 <http://www.genkiplaza.or.jp/>